

新総代に上林信良氏、下岡智也氏

総代就任挨拶

縣神社 総代 上林 信良



神社は稲作を中心とした日本人の暮らしに関する重要な場であり、誕生から入学・卒業・結婚・退職と老いを迎えるまで生涯を通して関りのある、日常的な祈りの場である。季節や年齢に応じた祈りがあり、一度だけの大切な通過儀礼、人の一生における節目には必ずと言えるほど神社は近い存在である。

神社は町の安全・安心に大きな役割を持っているものであり、地域の人々の暮らしを守る祈りの場である。

職場や家庭などで関る人々や大切な人の為、誰もが日常の中で自然と祈る。事の始まりには祈りがあり、人は祈る事で存在し、祈りと共に進歩すると言っても過言ではありません。神社の役割に理解を深め、暮らしやすい地域社会づくりにご奉仕していききたいと思います。

この度このような祈りの場の一員として機会を頂き感謝申し上げます。

ごあいさつ

縣神社 総代 下岡 智也



この度、歴史と伝統ある県神社総代会の末席をけがさせていただき、大変光栄の限りです。

県神社様につきましては、子どもの七・五・三詣でや、社員の結婚式、そして地鎮祭と常日頃より、公私に渡りお世話になっております。

そして総代会といえ、私の父であります下岡矢市郎が生前大変お世話になり、また父も県神社様の総代として神社発展の一助となるべく努力し取り組んでまいりました。

今後、私も父に代わり、先輩総代様のお話を十分お聞きしてできる限り神社発展のため大変微力ながら尽力して参りたいと考えております。

どうか、若輩者ではございますが皆様方、今後とも、よろしくお願い申し上げます。



「雨に散る」… 川口重一

グランプリ

講評

日本写真家協会会員 溝縁ひろし

源氏物語の宇治十帖にあるように、宇治市には京の都と共に古い歴史があります。その旧市街の一角にある県神社。本殿や茶室には独特の趣があり、境内の大銀杏や枝垂れ桜などが春夏秋冬の彩りを楽しませてくれます、また、わくわく感たっぷりの県祭や宇治市指定無形民俗文化財の大幣神事など行事も多い。今後、節分祭も行われると聞きました。

最近、境内を散策したり、行事に参加する外国人旅行者もよく見かけます。みんな楽しそうに、スマホでパチリパチリ！今回で写真コンテストは終わりますが、これからも県神社のいろいろな表情を写して、魅力を発見して行ってください！

グランプリ「雨に散る」川口さん

水に浮かんだ桜の花びらと、映り込んだ風景。その遠近感を作る画面がすてきです。

木の花会会長賞「気をつけてお帰り」森川さん

タイトルの「気をつけてお帰り」は、花菖蒲の言葉でしょうか。レンズ越しに作者の優しい眼差しが伝わってきました。

あがたはん

第7回 写真コンクール

入賞作品展



優秀賞 「わおうう！！」… 奥村博己



優秀賞 「御神体送り」… 澤田充広



優秀賞 「緊張の一瞬」… 谷口泰弘

「気をつけてお帰り」
… 森川光男

木の花会
会長賞

入選

「馳せ馬疾走」

… 居原田晃嘉

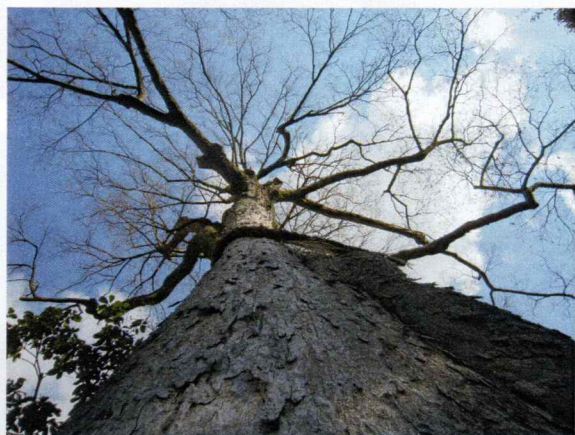


入選

「春つらら」
… 表 弘明

入選

「冬空に向かい立つ」
… 谷 繁雄



入選

「お馬しゃん」
… 土屋 哲



入選

「みこし宇治川を渡る」… 佐野敏男



台風21号被災報



奉 野分御見舞

入	江	宗	輔	木	田	清	奈	須	秀	子
船	曳		満	宮	原	隆	上	田	菊	代
古	村		愛	杉	本	観	山	吹	写	真
神	田	紗	有	石	黒	正	や	ま	ぶ	き
猪	上	一	夫	池	畑	淳	梵	天		講

御 礼

昨秋の台風 21 号は、京都全域に甚大な被害をもたらしました。

当神社に於きましても、強風と強風による大木の枝折により本殿覆屋の毀損、天満社（末社）の破損等が生じました。

その折に野分見舞を奉納賜りまして、心より感謝致しております。

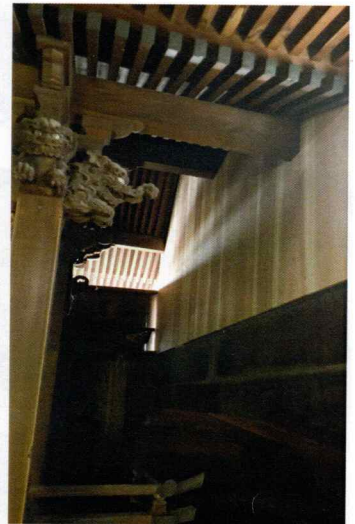
その後、お陰様にて原状回復も真近かになりました。厚く御礼申し上げます。

平成 31 年 3 月 23 日

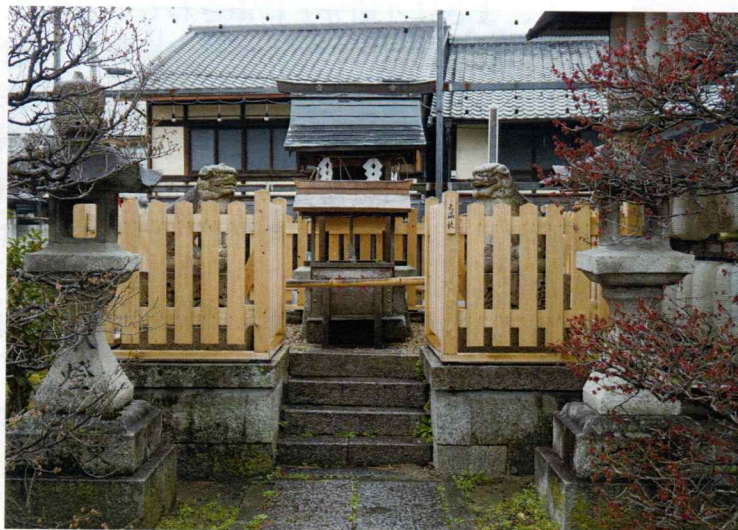
縣神社 宮司 田 鍬 到 一

毀損の修復状況

本殿



天満社



節分祭 奉納落語会

木の花会 上田 邦夫

日本人の神の観念のひとつに「和魂」といふのがあります。これは、「神の笑い」が、私たちの生活に幸せをもたらしてくれるという信仰です。そのために人々は、神様に笑ってもらおうと、神の前でご機嫌を伺い、自らも笑うことにつとめてきました。

縣神社の節分祭は、昨年までは宮司が本殿で肅々と「祝詞」をあげられ、厄払い・招福を祈念されていました。

今年は、せっかく厄払いの祈願でお詣りされる方へ、「何か喜んでいただけるものはないか」と宮司からご相談があり、木の花会で協力させていただくことになりました。

豆まき行事は何処の神社でもされており、他の催しをと考え、そこで思いついたのが「奉納落語会」でした。神様を笑わせ、自らも笑って、幸せがやって来る。こんないいことはない。宮司にもご承諾いただきました。

当日は、神社のお守りと、福豆に代わって「福梅」を撒饌としてお配りし、甘酒の接待もさせていただきます。



桂 米二

午後3時から、お詣りの方も本殿にお入りいただき、賑やかに節分祭を斎行。そして、夕方4時から、庭に面した綏邦書院を会場にした「奉納落語会」を開催いたしました。初めての試みでしたので、どれくらいの方が集まっていたか不安ではありましたが、当日は椅子席も座布団席も満席で大盛況となりました。

演者は宇治市出身の、芸歴40年を超えた桂米二と、まさに「節分」にふさわしい名前の、3番弟子の桂「二豆」のおふたり。演題は宇治にふさわしい「茶の湯」と、褒め方を指南された男の言動がおかしい「子ほめ」でご機嫌を伺ってもらいました。会場には絶えず笑いが起こり、幸せ感が広がり、きっと「木花開耶姫」の「和魂」にも響いたに違いありません。

終了後、「また来年もやってや」というお声をいただきました。

笑門笑福！ 節分の日「縣神社の奉納落語会」で笑って福を招く！これが定着しますように、これからも続けてまいります。



桂 二豆